

Think globally, Act locally! ～日本の良さを見つめよう～

学校所在府県：京都府

学校名：京都市立岩倉南小学校

名前：橋本 花織

実践教科：学級活動・社会科

指導時数：10 時間

対象学年：小学6年生

対象人数：72 人（2クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

「日本よりも日本の文化を大切にしている日系社会×日本人を大変信頼しているブラジル社会」
ブラジルに行ってブラジルのことを知ろうとしたはずなのに、昔ながらの日本を垣間見た二週間となった。食文化・年中行事をはじめ、日本から遠く離れたブラジルで日本文化を根付かせ、それを継承していこうとしている方々の姿から、生活において文化の果たす役割を考えさせられるとともに、彼らの生きる力となっている日本文化の素晴らしさをあらためて感じる事ができた。また“ジャポネスガランチード（日本人は信頼できる）”という言葉が示すように、その日本人を信頼し、受容し、共生しようとするブラジル社会の柔軟さは、これからのグローバル社会において日本社会が学ぶべき大切な姿勢であると感じた。

「自分のルーツに誇りをもつブラジルの日本人・日系ブラジル人」

日本語学校で出会った日系ブラジル人の先生は、自身の性格を60%は日本人（時間にきっちりするところ）、40%はブラジル人（何事も楽観的に考えるところ）であると話してくださった。アイデンティティについて葛藤はないのか尋ねた時、「自分は自分だから。」と答えた時の張りのある声と満面の笑みは、今でも忘れられない。また、ホームステイ先で出会ったホストファミリーのおじいさんは、「他人の真似をしていては絶対に成功しない。命をかけて自分の仕事をするんだ。」と語ってくださった。日本人として自分は誇りを持っているのか、教員として自分にできることは何なのか、そして私自身はこれからどうあるべきなのかを考えるきっかけとなった。

「行動力のある刺激的な教員仲間」

この研修の魅力は、普段なかなか出会うことができない他校種の先生方とつながり、集団行動をしながら共に学び合い、高め合うことができることだ。10人いればそれぞれ参加の目的や興味・関心も異なり、そのアプローチ方法も様々である。国内事前研修、そしてブラジルでの10日間はもちろんのこと、帰国してからも互いに刺激し合える、素敵なメンバーに出会えたことが何よりの宝となった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

開発教育とは、私たちひとりひとりが、開発をめぐるさまざまな問題を理解し、共に生きる社会づくりに参加することをねらいとした教育活動である。これは昨今、謳われている「アクティブラーニング（課題解決型授業）」にも共通している点があるのではないかと。知識を教える教師ではなく、子どもたちの学びをデザインし、ファシリテートできる教師に求められる力とは何なのか。そして小学校6年生の児童にとって、どのようなアプローチが能動的な学びにつながるのか。そういうことを実践を通して見つめていきたいと考えた。小学校教育では、教科の枠を超えて、比較的柔軟に授業実践をすることが可能である。しかし今回は対象学年が小学6年生であるため、社会科という枠の中で移民やオリンピックの単元を取り入れた。世界の実情や課題を知った上で、先人の業績に興味・関心と理解を深めるようにするとともに、自国を愛する心情を育てたい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 世界がもし 100 人の村だったら *ロールプレイングを通して世界の实情を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●「世界の言葉でこんにちは」あいさつをして仲間を見つけてグループを組む。 ●「大陸ごとに分かれてみよう」人口の分布や密度を体感する。 ●「あなたがもし 100 人村の住人だったら？」役割カードを使ってその实情を知り、世界の貧富の格差について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら (開発教育協会) ●ワークシート
2 時限目 世界の子どもたち *世界の子どもたちの写真を見て、それぞれの国が抱える課題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●修学旅行で訪れた広島で、原爆の体験談や禎子さんのエピソードを思い起こす。 ●平和な世界とは何かについて考える。 ●3枚の写真を見て、それぞれの子どもたちが訴えるメッセージを想像する。 ●世界が抱える問題について交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシート ●写真
3 時限目 ブラジルについて考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ●教師海外研修について知る。 ●ブラジルのイメージや自分が知っていることを話し合う。 ●ブラジルについて知りたいこと・見てみたいものなどを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシート
教師海外研修		
4 時限目 フォトランゲージ *ブラジルについての2枚の写真から、教師がブラジルに行って一番驚いたことを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ●写真の一部を見て、何を表しているのかを考え、グループで話し合う。 ●全体で共有する。 ●写真の全体像を見て、改めて話し合う。 ●写真に関わる背景について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真 ●ワークシート
5 時限目 モノランゲージ *ブラジルに関わるものに触れて、その生活や文化を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルに関わるものを実際に目で見て、直接触れてみて、どんなものが想像する。 ●それらのものから連想する仕事を考える。 ●アグロフォレストリーについて知る。 ●自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルから持ち帰ったもの ●ワークシート ●DVD「世界行ってみたらホントはこんなところだった」
6 時限目 クイズどっちが日本!? *どちらが日本かを考えながら、なぜ似ているところがあるのかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●写真を見ながら、どちらが日本かを考える。 ●なぜ似ているものが両国にあるのかを考える。 ●写真の背景について知り、ブラジルの日系社会について理解を深める。 ●移民カルタで移民について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイント ●ワークシート ●移民カルタ
7 時限目 【社会科】 「世界に歩み出した日本」 海を渡った人々 *移民として生きた日本人が多かったことを知り関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ●何のポスターが想像する。 ●「明治移民の海外移住と現在」から移民の歴史について読み取る。 ●移民船「笠戸丸」について知る。 ●移民トランクを用いて、移民の方々の仕事を調べる。 ●移民として日本に渡ってきた日系人について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●移民ポスター ●DVD「笠戸丸について」 ●移民トランク ●紙芝居「カリナのブラジルと日本」
8 時限目 【社会科】 「新しい日本 平和な日本へ」 *3つのオリンピックのアピールポイントについて調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ●1964年の東京オリンピックについて思い起こす。 ●2016年のリオオリンピックについて資料を読み取る。 ●2020年の東京オリンピックに向けて、日本がアピールしたことを予想し、調べる。 ●自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3つのオリンピックの写真や資料 ●ブラジルの方からのメッセージ

9・10 時限目

NIPPON 行ってみたい
ホントはこんな国だった!!

*日本の良さをアピールする
プレゼンを作る

- 外国人のインタビュー結果を調べる。
- 文化・食事・観光・マナーグループに分かれて日本の良いところを調べる。
- 外国人観光客にアピールするためのプレゼンを作り、発表する。

- インタビュー結果
- 観光パンフレット
- ワークシート
- パワーポイント

3. 授業の詳細

1 時限目：世界がもし 100 人の村だったら

ねらい…ロールプレイングを通して世界の実情について知る。

◆内容◆

- ① あいさつをして仲間を見つけてグループを組む。
- ② 人口の分布や密度を体感する。
- ③ 役割カードを使って、世界の貧富の格差について考える。

! ココがポイント

マジョリティの立場・マイノリティの立場に立った児童それぞれに、その時感じた思いを発表させ、互いの気持ちを理解できるようにする。日本人に生まれて良かったと、途上国の現状を他人事のように感じるのではなく、これから自分たちがどんなことを考えていかなければならないのかという意識をもてるようにする。

児童の感想

- ▶ みんなはどんどん仲間を見つけているのに、「こんにちは」と言い続けても、全然仲間が見つからなくて悲しかった。世界では日本語があまり使われていないことを知って驚いた。
- ▶ 僕たちは学校に行っているいろいろな勉強ができるから、世界の困っている人たちの分ももっとがんばらないといけないと思った。
- ▶ 世界のいろいろな問題を知って、自分にできることは今すぐ行動したいと思った。

2 時限目：世界の子どもたち

ねらい…世界の子どもたちの写真を見て、それぞれの国が抱える課題について考える。

◆内容◆

- ① 平和な世界とは何かについて考える。
- ② バラバラになった写真のピースを集めてグループを組む。
- ③ 3枚の写真を見て、それぞれの子どもたちが訴えるメッセージを想像する。
- ④ 世界が抱える問題について交流する。

! ココがポイント

今回は、銃を持って戦争ごっこをするイスラエルの子どもたち、ゴミ山でゴミを捨てるフィリピンの子どもたち、放射能測定器を持ちマスクをして登校する日本の子どもたちなど、各国の課題を子どもの目線から考えられるようにする。

3 時限目：ブラジルについて考えよう

ねらい…ブラジルについてのイメージを共有し、知りたいことを考える。

◆内容◆

- ① 教師海外研修について知る。
- ② ブラジルのイメージや自分が知っていることを話し合う。
- ③ ブラジルについて知りたいこと・見てみたいものなどを考える。

児童の反応

- ▶ 日本とブラジルの学校で似ているところとちがうところが知りたい。
- ▶ 子どもたちの中で流行っている遊び何か知りたい。
- ▶ ブラジルの治安はどのくらい悪いのかを知りたい。
- ▶ ブラジルには日本人がいるのかを知りたい。

4 時限目：フォトランゲージ

ねらい…ブラジルについての2枚の写真から、教師がブラジルに行って一番驚いたことを想像する。

◆内容◆

- ① 写真の一部を見て、何を表しているのかを考え、グループで話し合う。
- ② 写真の全体像を見て、改めて話し合う。
- ③ 写真に関わる背景について知る。



標識



矯正箸

児童の反応

- <標 識> 「ここにぼうしを置くマーク」「地雷の危険を知らせるマーク」「山道になるマーク」
<矯正箸> 「おもちゃ」「子ども用のいす」「箸につける」(教師が和食が美味しかったと話したことから)

5 時限目：「モノランゲージ& DVD」(参観授業)

ねらい…ブラジルに関わるものに触れて、その生活や文化を知る。

◆内容◆

- ① ブラジルに関わるものを実際に目で見て、直接触れてみて、どんなものが想像する。
- ② それらのものから連想する仕事を考える。
- ③ アグロフォレストリーについて知り、自分の考えをまとめる。

児童の感想

- ▶ 私が持っているこしょうやブラジルナッツ、カカオ豆は、小長野さんをはじめとする日本人の努力がいっぱいつまっていると思った。
- ▶ 日本人がコンビニやスーパーで買っているアサイーはブラジルの人ががんばってがんばって作っていることが分かった。なので僕は今度アサイージュースを買ったら、ブラジルの人に感謝しながら飲みたいと思った。
- ▶ 自分が貧しくても工夫して生活を豊かにし、他人に強盗されてもその人たちを豊かにするために工夫していてすごく賢く、心の広い人だなと思った。僕も自分のためだけでなく、人のために力を使えるような人になりたいと思った。

保護者の方の感想

- ▶ 最近娘がブラジルの話をよく聞かせてくれます。私自身もサッカーやリオのカーニバルくらいしかイメージできなかったブラジルという国の歴史や文化について知ることができ、大変勉強になりました。
- ▶ 教科書ではなく、先生の体験から学ぶことができる子どもたちは、とても生き生きとしていました。小学生の子どもたちにとって貴重な経験となったと思います。

6 時限目：「クイズどっちが日本!？」

ねらい…世界の子どもの写真を見て、それぞれの国が抱える課題について考える。

◆内容◆

- ① 写真を見ながら、どちらが日本かを考える。
- ② なぜ似ているものが両国にあるのかを考える。
- ③ ブラジルの日系社会について理解を深める。
- ④ 移民カルタで移民について知る。



読み札の意味をよく考えよう!

移民カルタ（右）とカルタをする子どもたち（左）

7 時限目：「世界に歩み出した日本」～海を渡った人々～

ねらい…移民として生きた日本人が多くいたことを知り関心をもつ。

◆内容◆

- ① 「明治移民の海外移住と現在」から移民の歴史について読み取る。
- ② 移民トランクを用いて、移民の方々の仕事を調べる。
- ③ 移民として日本に渡ってきた日系人について知る。



いみんトランク

◆所感◆ 今回の教材は、JICA 横浜の海外移住資料からお借りしたものや神戸の移住ミュージアムで展示されていた資料を使わせていただいた。移民の方々や、日系ブラジル人の方々の思いに迫るために、笠戸丸の船内の様子を映像で見せたり、実話を元にした紙芝居を読んだりしたことは大変友好的であった。しかし課題は使う資料の厳選である。また今後も他の資料を活用していきたい。

8 時限目：「新しい日本 平和な日本へ」

ねらい…3つのオリンピックのアピールポイントについて調べ、自分だったら何をアピールするかを考える。

◆内容◆

- ① 1964年の東京オリンピックについて思い起こす。
- ② 2016年のリオオリンピックについて資料を読み取る。
- ③ 2020年の東京オリンピックに向けて、日本がアピールしたことを予想し、調べる。

！ココがポイント

オリンピックはスポーツを通して、その国の発展に貢献することはもちろんのこと、世界が1つであるということを通認認識するためのきっかけとなる。人種や文化の違いを超えて、それぞれの良さを認め合うことの大切さを子どもたちが気づけるようにする。

9・10 時限目：NIPPON 行ってみたらホントはこんな国だった！！

ねらい…日本の良さをアピールするプレゼンを作りを通して、自国のすばらしさに気づき誇りをもつ。

◆内容◆

- ① 外国人のインタビューや、外国人向けの観光パンフレットを使って調べる。
- ② 文化・食事・観光・マナーグループに分かれて日本の良いところを話し合う。
- ③ 外国人観光客にアピールするためのプレゼンを作り、発表する。

！ココがポイント

観光都市京都に住んでいる子どもたちにとって、街中で外国人を見かけることは日常的である。彼らは何を求めて日本に来ているのか、またどんなことに驚き、関心しているのかを知ることで、自国の素晴らしさに気づき、日本に誇りをもつきっかけにしたい。

4. 成果

「教師自身が変容した経験がなければ、子どもの変容は見とれない。」これは事前研修で山中先生に教えていただいたことだが、正直私自身が目覚ましく変わったという実感は今のところない。海外に行ったからといって自分が劇的に成長するわけではないし、帰国後はその経験をどう子どもたちに伝えようかと悩む毎日であった。しかし、自分が動けば、子どもは確実に変わっていく。ブラジルに行くと言っただけで、その日からブラジルについて新聞やニュースで何かを知れば、すぐに教えてくれる。社会科の学習で、一生をかけて日本地図作りに情熱を注いだ伊能忠敬について学べば、「ブラジルでがんばった日本人みただね！」と目を輝かせる。休み時間にしりとりをしていてアサイーという単語が出てくる。そんな日常のたわいもない変化から、いずれは自分の足でブラジルに行きたい！ JICA で働きたい！ 医者になって世界中の子どもを助けたい！ など、頼もしい将来展望まで聞かせてくれる。彼らがこれから大人になっていく上で、私とブラジル、そして世界との出会いが何かのきっかけになれば、教師としてこれ以上ない喜びである。

5. 課題

今回授業をしてみて、何より感じたことは資料を厳選することの難しさである。自分が体験したことだからこそ、あれも伝えたい、これも見せたい！ と思いが強くなり、1時間にくつもの教材を詰め込みすぎてしまったことが反省点である。子どもたちは写真1枚から大人が想像もつかないような視点で思いを巡らせ、ああでもないこうでもない話し合うことができる。彼らの反応を予想し、実際に学習しながら臨機応変に展開をしていく力が求められると感じた。また、この研修のプログラム自体は1年で終わるが、今後も一緒に参加した先生方やOB・OGの先生方と授業実践について交流しながら、さらにいろいろなことに挑戦していきたいと考える。

参考文献

- 「開発教育ハンドブック 参加型学習で世界を感じる」開発教育協会
JICA 資料「ぼくら地球調査隊」小冊子5冊
「ブラジルを知るための56章」アンジェロ・イシ 明石書店

参考映像及び使用ビデオ

- 「ブラジル」世界行ってみたらホントはこんなところだった 2014.5.28 放送
「時々迷々 祖国」NHK for School 2014.9.4 放送
「カラフル ぼくの中の二つの国」NHK for School
「ブラジルの農業」NHK for School